第４号様式（第８条関係）

議　事　録

会　議　名	令和５年度　第２回寒川町生涯学習推進会議		
開 催 日 時	令和６年３月２６日（火）　午後３時００分～午後４時３０分		
開 催 場 所	寒川町役場　東分庁舎２階　第２会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	出席者：町田委員、村山委員、齋藤委員、小澤委員、吉田委員、平野委員、仲田委員、滝沢委員、加島委員 欠席者：中島委員 事務局：芝崎学び推進課長、佐野学び推進課主査、佐藤学び推進課主任主事 傍聴者：１名		
議　　題	(1)　「第２次寒川　学びプラン」令和４年度事業の評価について (2)　「第２次寒川　学びプラン」令和６年度実行計画について (3)　生涯学習に関するアンケート調査集計結果について		
決 定 事 項			
公開又は非公開の別	公　　開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	

議事の経過

１　開会
　芝崎学び推進課長

２　あいさつ
　村山会長

３　議事録承認委員の指名
　承認委員は村山会長、齋藤委員が務めることに決定。

４　議題
（１）　「第２次寒川　学びプラン」令和４年度事業の評価について（資料３）
　・資料３により事務局から説明

【会長】令和４年度事業報告の生涯学習推進会議評価について、事務局提案を基に検討していきたいと思います。ご意見等をお願いいたします。特にないようでしたら、事務局の評価案をそのままという形になるのですか。

【事務局】皆様から修正等のご意見がなかった場合には、この事務局案をご了承いただいたものとして、公表の手続を行いたいと考えております。

【会長】皆様がよろしければ、次に移りたいと思います。それでは、令和４年度事業報告の評価についての審議を終わりにいたします。今後、公表までの手続として、どのように進めていくことになるのでしょうか。

【事務局】皆様からご意見等は頂戴しなかったので、このままこちらの案を確定したものとして、今後、町のホームページ等で公表していきたいと考えております。

【会長】事務局から説明がありましたけれども、委員の皆様、それでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【会長】最終的な確認段階で細かい文章表現の部分など、会長の私に一任していただいてよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【会長】では、そのようにさせていただきます。それでは、ご確認いただきましたので、事務局は公表の手続、よろしくお願いします。

（２）「第２次寒川　学びプラン」令和６年度実行計画について（資料４）
・資料４により事務局から説明

【会長】ご質問、ご意見等はおありですか。

【委員】３点ほどございます。最初に、令和６年度実行計画における目標数値の在り方について。前年度の実績を基に、次年度の目標設定をお願いしたいということです。令和４年度のＡ評価事業、４２事業あります。このＡ評価のうち６事業で目標数値を１．５倍上回っております。具体的には、事業Ｎｏ．２３は１６７％、Ｎｏ．２５は１８３％、Ｎｏ．２８は２２５％、Ｎｏ．２９は１９４％、Ｎｏ．４２は１６５％、Ｎｏ．６３は４７３％。通常は前年度の実績を基に、次年度の目標を設定しますよね。実績値が目標数値を大きく上回る場合は、その理由とともに目標数値の見直しをお願いしたいというのが私の質問です。

【事務局】例えば総合計画につきましても、ほかのプラン等でも策定する段階で、実施期間、実施計画についての、あらかじめ目標数値を設定していくという、現在そういうやり方となっておりますので、前年度の実績が出た段階で次年度の目標を設定するというようなやり方は、庁内では計画等において行っていないので、ただ、先ほどおっしゃったような極端な場合もあるので、ご意見として検討させていただきたいと思っております。

【委員】令和４年度を見るのに、令和６年度にいく場合に２期、つまり令和５年度の実績が出てないのです。ですから、今言っているのは、ちょっと乖離があるのですけど、ただ、世間一般は、前年度の実績を基にして次年度の目標をつくるのが当たり前なのですよね。ですから、今のプランというのはそれでもう致し方ないとは思うのですが、次期プランは、目標値のあり方をぜひ見直してもらいたいというのが私の考えなのですけど、皆さん、どうでしょう。

【会長】皆様、今のご意見に対しては。

【委員】令和５年度の実績というのはいつ出るのでしょうか。令和４年度をベースに６年度ということですか。

【事務局】令和５年度の実績は、まだ今年度が終わっておりませんので、５月あたりに各課に依頼をして、実績を出してもらうことになります。

【委員】ちょうど令和４年あたり、コロナの影響とか、もろもろ受けている時期かなと思います。それらが、先ほど委員がおっしゃられた数値にどれくらい反映しているのだろうかとか、その前の年はどうだったのかとか、そこまではどのくらい上昇して、今回２００を超えるものがあったりしたのですけど、これは本当に突出して今回だけなのか、例年として傾向があるのかというのを、こちらのほうで推察できませんので、そこらへんも勘案して、次回に計画値を見せていただければと思います。

【事務局】次期プランにおいては、そういったことも含めて庁内で検討していくことになるかと思いますので、皆様のご意見は参考にさせていただきたいと思っております。

【委員】今、委員がおっしゃったコロナの影響、それ、D評価で出ています。４点あります。事業Ｎｏ．１３は目標値7,450に対して実績ゼロ、事業Ｎｏ．４３は目標値２に対して実績ゼロ、Ｎｏ．５０は目標値６に対して実績ゼロ、Ｎｏ．５２は目標値１に対して実績ゼロ。全てコロナの影響、あるいはやり方を変えたということによって、実績ゼロというのがD評価で４つあります。それは多分コロナの影響だと思います。

【委員】つまり、個別に、個々の案件において影響あるもの、ないものを勘案していかないと、計画値も立てにくいと思うのですね。そこらへんも含めて、どういうふうな計画値を立てていくのかというのを、何か基準のようなものを作成いただければ１つの指標になるのかなと思います。

【委員】各市町村も同じように、３年なら３年計画でずっと寒川町と同じような目標数値なのですよ。でも、それって、全て右にならう必要はなくて、いわゆる寒川らしさを出すためには、やはり現在の実績に対して次の目標をいくつにするかという意味で、リアルタイムの実績値を反映させるのは、やはり生涯学習をリアルに我々が捉えるために必要だと思うのですよね。ですから、次の「学びプラン」のときには、それは絶対入れてほしいなというのは私の意見です。

【事務局】令和６年度は「学びプラン」の改定になるのですけれども、実は総合計画も来年度が改定の時期になりまして、他のプランも来年度、改定の時期になりますので、うちのプランだけではなくて、庁内のそのほかの総合計画をはじめとするプランがどのように改定を行っていくか、目標設定を行っていくかというのも参考にはさせていただきたいと思っております。

【委員】皆さんのことをまとめているのが事務局ですよね。そちらが、こうやりましょうという提案をしないのでは変わりません。なぜ変えようとしないのでしょうね。その点、ちょっと疑問なのですけれども。事務局は、ただ皆さんのを集計して、それをただ単に私たちに披露して、どうでしょう、これっていいですよねではないと思うのです。事務局の本来の目的って、集まったものに関してマル・バツの評価をして、あなた、これ駄目ですから直してください、これに関してはもっと頑張ってくださいとか、そういうところはないのでしょうか。今、これに回答しろと言っているわけじゃなくて、個人的な意見ですけど。事務局のやり方が、私、ちょっと物足りません。

【委員】２つ目は、事業Ｎｏ．６、母子健康教育事業で、事業予定数が１４４回に対して、目標数値１３３回です。担当課は１４４回やるよって言っています。でも、目標数値は１４４回になっていない。しない理由は何でしょうか。

【事務局】先ほどの説明にも関わる部分かもしれないのですけれども、こちらの目標数値ですが、「第２次寒川　学びプラン」は令和２年度に策定をしたので、基準値を基に、令和３年から令和６年までの目標数値を出していったのですが、令和元年度のものを基準として、担当課で４年間どのような計画で行っていくかということで、目標数値を１３３回にしたと思います。ただ、その後いろいろな事業計画の変更、社会情勢の変化、担当課の方針等もございますので、結果としては、令和６年度は１４４回の事業を行うことになったということで、こちらとしては解釈しております。

【委員】こういう話をなぜしたかと言いますと、例えば１００メートル１０秒で走れる方がいます。でも、１５秒で走るねと言いました。そうしたら、力を抜いて走ることと同じじゃないですか。だって、１５秒なのですよ。１０秒で走れるのに１５秒で走っちゃう。だから、全力で走らないで目標とは言えないと思うのです。ですから、今のやり方は、すごく言い方は悪いですが、楽ですよね。１回決めてしまうとそのまま行っちゃうのですけれども、でも、もっとリアルタイムな目標設定というのが現在は必要なのではないかというのを、１番と２番の質問でちょっと触れさせていただきました。皆さん、どうお考えですか。

【会長】これに関して何かご意見ございますか。

【委員】３つ目ですけれども、３つ目に関しては、これは私の感想です。事業Ｎｏ．２９、「現代的・地域的課題に関する講座等の開催」、これは青少年期、高齢期講座を現状１割から２割へ増加を図るというコメントがあります。これ、すごくよい取組だと思います。教養講座の充実、今後も期待しております。

【会長】今のお話に関して何かお考えをお持ちの方、いらっしゃいますか。事務局もよろしいですか。

【委員】委員のご意見のとおり、私も目標値を設定する基本的な考え方を打ち出されたほうがいいと思います。令和６年に向けて、寒川町ではこのような基本方針、それが非常に高いところ、高みを目指すのか、そうじゃない、自分たちができる範囲で確実にできるところを目指すのかとか、いろいろあると思いますが、それはなぜかというところを含めて、基本的な考え方が出れば、その当たりのつけ方というか、設定の仕方が非常に分かりやすくなる、皆さんに理解しやすくなるのではないかと思います。

【事務局】町の総合計画の見直しが令和６年度に行われます。その整合性を取って、各課が目標値などを立てていきますので、令和６年度にどういった形になるかというのが、委員からいただいた、ご意見がうまく反映されるかは分かりませんけれども、改めて令和６年度に各課がそういった部分で見直しをしてまいりますので、そういった部分で、またご意見がありましたら、いただきたいと思います。本日いただいたご意見は、ご意見として私どものほうで受け止めさせていただきたいと思います。

【会長】事務局では、しっかりと今後に生かしていただくということでお願いしたいと思います。ほかに、ご意見、ご質問等おありですか。

【委員】総合計画のメンバーというのはどこかに載っているのですか。メンバーというのは課長級とか、担当者はいらっしゃるのですか。総合計画を作成するための行政側のメンバーというのは、ある程度、最終的には課長クラスでまとめ上げていくとか。

【事務局】そうですね。今は設定としては、それぞれ総合計画の委員さんという……。

【事務局】それぞれ各課において、今度、令和７年度からの総合計画を立てるに当たっては、主となるのが企画政策課というところになります。それで、こちらの課とそれぞれ総合計画に数値を出している部門の課が調整をしながら、確認をして数値を設定していくような形になってまいります。それで、最終的には外部の委員さんの会議に提案するような形にもなってくるかと思います。私のほうで言葉が足らなくて申し訳なかったのですが、総合計画との整合性というところで、私どもの「学びプラン」、今、第２次ですけれども、例えば、寒川町教育振興基本計画であったりですとか、寒川町地域福祉計画ですとか、それぞれの課の計画というのがありまして、そことの連携を図ったものがここに数値として出てきたりもするので、ただ、こちらの目標値が令和６年度の数値と合わないから、じゃ、直しましょうって、簡単に直せるかというと、そこのところは連携をしている数値でもあるので、簡単に変えるのが難しい部分もございます。

【委員】今、委員さんから言われたようなことは、どっちかというと企画のほうに進言していくという形になるわけですかね。

【事務局】あとは来年度、うちのプランの改定もありますので、その際に、関係課等の会議が内部で行われますので、そういった部分で今回のお話などもお伝えしながら進めていきたいとは考えております。

【委員】貴重な意見だから反映していったほうが。そこでまた、どういうふうに反映するか。

【事務局】そうですね。いただいたご意見を伝えたうえで、町としてどう考えるかと

いうところにはなってくるかと。

【会長】あとはよろしいですか。

【委員】多分この様な計画を発表する時は、予算ありきだと思います。予算があってこういう計画を立てていく、その予算配分が、先ほどおっしゃられていた連携を図らなければいけない、いろいろ配分、割合があって、その制約もあるということをおっしゃりたいのかなと思うのですけれどもいかがでしょうか。

【事務局】確かに予算というのも当然関係してくることではありますので、お金であったりとか、それぞれの部門の計画の背景であったりとかいうのを含めて、各課が計画を立ててくることにはなってくるかと思います。

【委員】人件費も含むそういう予算が、こういった計画値の数値をどういうふうに反映していくかというのがちょっと聊か分かりにくいので、その数値だけを見て、いいか悪いか、高いか低いかというのが非常に申し上げにくくなってしまうのだと思います。どういう観点、視点でこれらの数値を見ればいいかというところを提示していただければと思います。ただ評価してくださいと言われても、そういう内情を全く知らない中での意見しか申し上げられなくなってしまうという気がします。今、課長がおっしゃられた状況が把握できましたので、これがどういうふうにここに反映してきて、その数字をどういうふうに見てください、そのうえで評価してくださいということだと、非常に意見しやすくなるかなと思いました。

【会長】事務局から何かありますか、この件に関して。

【事務局】特段ございません。委員から今いただいたご意見もこちらで参考にさせていただきたいと思っております。

【会長】それでは、質疑を終了してよろしいでしょうか。では、「第２次寒川　学びプラン」令和６年度事業については、この実行計画に基づき進めていただくことでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【会長】では、ご確認いただきましたので、皆様からいただいたご意見を踏まえて、令和６年度実行計画に基づき事業を進めていただきたいと思います。

（３）　生涯学習に関するアンケート調査集計結果について（資料５）
・参考資料１により事務局から説明

【会長】この資料、今、初見だと思いますので、少しお時間を取らせていただきます。自由記述に関しては回答がなかったということでよろしいですか、

【事務局】自由記述の回答はございます。生涯学習に関連しないものや町への要望等もいただき、こちらの場で公表するにはふさわしくないというような内容もございましたので、全てこちらには掲載してはおりません。

【会長】生涯学習に関することはなかった……。

【事務局】当然、生涯学習に関する内容もありましたし、ご自身の生活の状況といった個人的なことを載せてくださった方もいらっしゃいました。

【会長】分かりました。それでは、ご意見、ご質問等、何かございますか。

【委員】私も会長がお聞きしたかった自由記述についてすごく興味があったのですが、今、分かる範囲で私たちにも開示していただけると助かります。２点目、現状等の把握がアンケートによってできたと思います。つまり、現状を分析したということですよね。では、課題の把握をして、今後取り組むべき具体化した施策などは、どのような実施計画で行う予定ですか。

【事務局】今回、速報という形で出させていただいて、その段階で分析をさせていただいたということになります。先ほど委員から、自由意見についてお聞きしたいということだったので、当然、自由意見はこちらで集計はしてありますので、一部ご紹介をさせていただくということでよろしいですか。

【会長】もしよろしければ。

【事務局】そのままの状態で集計をしているので、分かりにくい部分もあるかもしれないのですが、紹介させていただきます。ただ、時間の都合上、全部は申し上げられないので。「毎回勉強になって、参加してよかったと思います。機会があったらぜひ参加したく思っています」、「年齢とともに交通手段の確保が難しくなってきます。近くの集会所等での開催があるとよいのですが」、高齢の方からのご意見だとは思いますが。「死ぬまで学ぶことは大切です」、「生涯学習を行っていることについて、もっと大々的にアピールをしてほしい。学びたいことがたくさんあっても、なかなかよいところが見つけ切れないのと、年を考えると学びたくても勇気が出ないので、町で講座や教室を行ってもらえると参加しやすいと思います」一部ですが、紹介させていただきました。

【委員】現状等を把握することがアンケートでできたと思います。現状分析、今、グラフ等でしましたよね。課題を把握して、その後、今後取り組むべき具体的な施策は、どのような実行計画、予定で行うのでしょうか。

【事務局】今後の実行計画に、次期プランということ……。

【委員】いや、このアンケートをどう生かすのかということ。

【事務局】集計、あくまでも速報値にはなるので、こちらを参考にさせていただきたいとは思っております。

【委員】私の言っている意味が通じてないと思うのですけれども、何のためにアンケートをやったかというのが全く把握されてないですよね。何のためにやったのですか。現状を把握したのですよね。現状を把握しただけで終わりですか。

【事務局】今回アンケートさせていただきましたのは、令和６年度、プランの改定になってきます。そのための参考とするために、アンケートを取らせていただきました。まだアンケートをまとめただけの段階なので、十分な分析となりますとこれからになります。今後このアンケートを踏まえまして、アンケート結果すべてを導入するのは当然無理な話で、プランを考える中の参考としてこのアンケートを使わせていただきたいと考えております。

【委員】私の質問は、課題を把握していることとして、アンケートを今後どのような取り組みのために具体化した方法で活用するのですか、そういう具体的な実行計画、実施計画、つまりプラン、何月何日までに何々をやる、何々をやるというのはできているのですかというのが私の質問です。

【事務局】重ねての説明になってしまうかもしれないのですが、あくまでも第３次の「学びプラン」の策定に伴うもので、現状等を把握するためということでアンケートを取らせていただいて、かつ、今後策定を行ううえで参考にさせていただきたいと思っております。答えになっていないかもしれませんが、現状でお答えできるのはこの

部分です。

【委員】委員の皆さん、今の回答で納得されたでしょうか。されたのであれば、私はこれで質問をやめますけど。

【委員】とてもいいご指摘だと思うのです。これは、統計を取っているだけなので、分析がないと思います。課長がおっしゃったように、ここから分析していけば、誰に何をどうすればいいかが見えてくると思います。そのためには、データを公開していいものか非公開なのかよく分からないのですけど、私、大学の情報学部なのですが、こういうデータがあれば、例えば、男性はこういう傾向にある、女性はこういう傾向にある、男性でこういうことを思考する人たちはこういうことも思考している、女性のこういう方たちは、こういう年代層はこういうことも思考するが、その反面こうだみたいなことがだんだん見えてくる。相関を取るとか、いろいろなやり方があるのですけれども。そのデータを分析してみて、傾向が出てくると思います。全体の傾向、性別の傾向とか、思考の傾向とか。それが出た段階で、どういうところに視点を置くべきか、力を入れていくかというのが見えて、それを計画に反映するというステップが多分出ると。せっかく４０４人の貴重なデータがあります。２６．９％も回答してくださっているので、それを有効に使って、分析をして、その結果を基に、それを共有して、そして、どこに視点を置いていくか、どうしたらどういう効果が生まれるだろうか。皆さんが望まないものをこっちで計画しても、もったいないので、望むところに適した計画にしていくということがそれに表れてくる。そこからステップ・バイ・ステップで考えていくことができると思います。これだけだと、参考にしようも、まだデータが分析されてない状態かと思います。もう一手間、二手間かけると方向性が出ると思います。

【会長】事務局、いかがですか。

【事務局】今の段階でどうだというお答えができないのですが、そういったご意見があるということで参考にさせていただきます。確かな答えにはなっていないのですが。

【委員】ここに令和６年度が出ていますけれど、具体的な内容の年間計画みたいのって、それぞれの分野でどういう内容をやるか、どういう講師を呼ぶかとか、そういう年間計画みたいなものが出来上がってきているのか。それとも、これから、こういうことで頼んで、こういうことをやっていきたいというふうな入る余地があるのか。

【事務局】令和６年度の具体的にどのような内容……。

【委員】それぞれの分野の計画があるから、その活動が、例えば講師を呼んでやるとか、そういうのはいつ、早め早めに計画して割り振っていくでしょう。そういうことがもうできているのか、まだこれからやっていくという、そういう余地のある内容なのか。

【事務局】それぞれ事業を行っている担当課で、ある程度、例えば講師を呼ぶとか呼ばないとか、予算もありますが、ある程度の計画は当然、来年度、すぐですので立てているかと思います。

【委員】そうすると、このアンケートの中で取り上げるのも、その中の少しでも生かしたものを入れていけばいけるのではないかと思った。こういうアンケートのところ、それぞれの分野でちょっとでも生かしていく内容を一つ二つでも取り入れていけるのではないかと思ったのです。年間計画では厳しいでしょうけどね。これから講師とか、こういうのを望んでいるから、こういうところをアタックしてみて入れていこうとか、そういうゆとりがあれば、少しでも生かしていけるのではないかなと思いました。

【委員】社会教育委員としては、教育委員会でやっている町民センターですか、そういう関係の、いわゆる事業に関しては１年計画で行われて、まず４月から９月の半年

	間はそれで決まります。誰が講師をやるかというところも決まります。日付まで決めます。ですから、もう一つ踏み込めば、各講座をやりました。すぐにアンケートを取ります。その結果を二、三日でフィードバック、講師にします。ですから、次にもし同じような講義をするときには、それは全て改善されなければいけないし、改善する方向で講師は臨みます。 【委員】私もこのアンケートを見ていて、数値の低いところも、低いというか、参加が少ないとか、いろいろあるので、これは私の独断的な意見かもしれないのですけど、せっかくこうやって大勢の人が見えているのだから、少なくとも１人は何かを答えられるような場面づくりとして、例えば、こういう事業がこれだけしかないのだけど、これは魅力がないみたいだけれども、皆さんどうやったら魅力がある事業ができるか聞きたいですねとかいう提案をしてみるのも一つの方法なんじゃないかなという気がちょっとするのですよね。皆さんを見ると、ある程度の年代層の方が集まってきているので。もう１点は、９番と１０番の相関関係を見ると、参加されている方はそれなりにいらっしゃるけれども、自分が講師だとか、そういったものはしてみたくないとかいう意見なので、参加した方の中で、そういうふうに講師をしてみたいとかいうアプローチをどんどんしていくことによって、この数値が上がるということはあるのかなというような気もちょっとするのですよね。これから分析する中で、いろいろいい提案がまた皆さん方からも出るかもしれないので、そういったのも一つの方法論じゃないかなと思ったので、発言しました。 【会長】事務局は今の流れで何かありますか。 【事務局】今日は、あくまでも今、アンケートのここの部分だけまとまったということで、皆さんにお時間のあるときに目を通していただければということでお配りさせていただきました。今後については、今いただいたご意見等も踏まえまして、来年度、プランを見直していく中で、どのようにここのところを反映させるかというのも含めまして、それぞれ会議を開いてまいりますので、その中で検討できればとは思っております。十分な答えじゃなくて申し訳ないのですが、今、お伝えできるのはここまでとなります。 【委員】あまり頻繁に集まっている会合ではないと思うのですね。その中で、今、課長がおっしゃったのは分かるのですが、「検討いたします」と言って、そのまま何もなくなってしまうのが一番怖いと思います。 【事務局】私のほうで会議と申しましたのが、こちらの会議もあるのですけれども、来年度は職員間の調整会議幹事会というのもプランの見直しがあるので、そういった部分で、中の職員同士での会議も数回やるような形になります。そこも含みまして、当然ここのプランの中には各課の数値が入ってまいりますので、そういった部分もあって、会議をちょっと増やして検討していくというところになります。この会議だけではないということをお伝えしたかったのを加えさせていただきます。 【委員】今、委員が言われた意見は、私、いいなと思ったので。 【委員】非常に機密性の高い部分だとか、ルールがある、規定があるとか分かりませんので、そこらへんはご確認をいただいて、そういうのも可能というだけでございます。 【委員】この結果というのは、全課に、皆さんに共有されるものですか。それとも……。 【事務局】今の時点では、集計をうちの課でしたところまでなので、今日会議がございましたので、委員の方々にお配りさせていただいたという状況で。 【委員】今後は……。

【事務局】まだ各課には共有しておりませんので。

【委員】されないのですね。

【事務局】来年度、プランの改定で職員間の会議が開かれますので、その中で必要に応じて共有という形になってくるかと思いますが、今後についてはまだ詳細が確認できておりません。

【委員】そこだと思うのです。アンケートをやったということが大事、それが目的になってしまうと、それは違うってなっちゃう。多分、その先が見えてないから、アンケートをやったことによって、こういうところにパーセンテージが低いところがある、それはなぜなのかというのが、他の課、例えば、私は支援センターを代表しているので、今の親子はどういうふうにしていったら生涯学習が受けられる環境にできるのかどうかというのは、そういう何がマイナスで、何をしたらプラスになっていけるのかというところを話していったうえで、その際、どういうふうにこれを生かしていって、生涯学習というものに結びつけていくのかというのが見えればいいのですが、このアンケートをやったことに重きが置かれているとなると、それはすごく違う。そこが見えたらすごくうれしいなというか、分かりやすいので。

【委員】あくまで手段ですよね。何かを受けるための手段としてのアンケートだと思います。何かを達成するという目標はまた別に、それは町のイベントでこういう計画の中でやっていくものをよりよくして、町民の方に響く、プラスになる、有益なものにするという目標があって、そのためにこれをしている。ぜひこれは生かす、活用するという気持ちでお願いしたいです。

【会長】アンケートの集計結果、今後について、まだ何かお考えをお持ちの方いらっしゃいますか。

【委員】今、委員が全部フォローしてくれましたけど、まさにそのとおりですよね。委員もおっしゃいましたけど、目的じゃないでしょう、アンケートは手段です。ですから、目標とする目的をしっかり握ってないと、何のためにやったか分からないということですよね。

【会長】結果から見えるところを生かしていっていただいて、町民の皆様がより幸福になるようにというところ、そこのところが多分一番大切なことだと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

【委員】町民の皆さんがいかに一人でも多く活動に参加してくれるか。参加してもらうのが大変ですよ、呼びかけたりして。一生懸命呼びかけて、何人集まって、どう活動ができたかというので。だから、そういう呼びかけ、こういうのがあるからぜひ参加してください、本当に呼びかけて、どのぐらい集まるかというところだと思うので。

５　その他

【会長】続きまして、５番の「その他」になりますが、委員の皆様から何かありますでしょうか。

【委員】よろしいですか。事務局から何もありませんか。

【事務局】来年度のプランの策定のスケジュールを簡単に、後ほど説明させていただきます。

【委員】「寒川　学びプラン」について、皆さんにご意見をお聞きしたいと思っています。寒川町生涯学習推進会議設置要綱というものを、資料２で皆さんお持ちだと思い

	ます。これの第２条、推進会議の所掌事項、いわゆる業務内容、職務範囲ですね。（１）「生涯学習推進の振興施策に関すること」とありますので、意見を述べさせていただきます。皆さん、生涯学習って何でしょうか。また、生涯学習社会とは何でしょうか。それの答えは全部、「第２次寒川　学びプラン」に載っています。１ページ目の下から４行目に、生涯学習について、「本町においても、住民のだれもが、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学び、生きがいのある充実した生活を送る」とあります。同じく２ページ目では、「『人生１００年時代』の到来を踏まえ、誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を個人の生活や地域での活動等に生かすことのできる『生涯学習社会』」とあります。お分かりのように、住民の誰もが生涯のいつでも自由に学習機会を選択し、学べることが生涯学習です。そして、誰もが、その成果を個人の生活や地域での活動などに生かせることが生涯学習社会です。 　さて、今ある事業、全ての人にとって開かれているでしょうか。参加できない方は対象外になっていませんか。車椅子の利用者、耳が不自由な人、目が不自由な人など障害のある方でも自由に学習機会があり、学ぶことができますか。参加できない場合、オンライン講座や動画配信サービスが提供されているでしょうか。公民館や図書館などの公共施設は、お年寄りや障害のある方でも安心して誰でも参加できますか。また、車椅子でも利用できるようバリアフリーでしょうか。現在は、事業に参加できることが前提条件になっていないでしょうか。いつでもどこでも誰でも、町が掲げる生涯学習を実現するために、現在、我々が議論している事業以外のもの、いわゆる不足している事業を展開する必要を私は感じています。私は、ソフトウエアとしての行政の関わり、ハードウエアとしての公共施設の整備を含めた展開が生涯学習だと思っています。例えば、行政は情報の積極的提供、学習機会や相談窓口の充実など、公共施設ではバリアフリーによる学習環境の充実、いわゆる参加しやすい環境づくりですね。そして施策事業では、障害者への配慮、オンライン講座の開催、充実などがあると思います。また、現代的な取り組みとしては、寒川在住の学びたいと思う外国籍の方への多様性対応もあるでしょう。もう一つ、アンケートの自由記入でこういうことを言われていました。参加したくても交通の便がない。まさにこれは生涯学習とかけ離れているのではないですか。いつでもどこでも誰にでも生涯学習や生涯学習社会が提供されているか、いま一度考え、計画に反映させる必要はないでしょうか。次期「寒川　学びプラン」では、生涯学習や生涯学習社会をしっかり見詰め直していただきたいと思います。以上、私の考えですが、皆さんいかがですか。どうお考えでしょうか。ちょっとご意見をお聞きしたいと思います。 【会長】今の委員の提案に対してのご意見ありますでしょうか。 【委員】年を取ると交通手段というのが一番大変です。私も高齢者ですけど、今まだ車を運転しているのですが、もうすぐ免許を返上しなければいけなくなったら、その後どうしようかとか、そういうことで高齢者の方々が参加したくても、参加できないと思う方は結構大勢いるのではないかと思います。それをどう解消して参加できるようにするかというのは、その人の積極性もあるだろうし、いろんな交通、バスなんかも通っているから。でも、そこまで行くのにも大変だという方もいるかもしれない。難しいところです。 【委員】高齢者の方だけじゃなくて、子育て中の方も、とてもじゃないけど、免許を持ってない、免許はあるけど車がないなんていったら出られないので。割とそこがイメージで見られてしまう。若いからだけではなく、子育て中って本当に動けない。だからって、バスが走っているといったって、荷物を抱えて子供を抱えて無理ですよね。だったら、もう行かないかなとなっちゃう。あとは、「生涯学習」という言葉の浸透率ってすごくないのかなという。ここは、「生涯学習」という言葉、生涯学習、言っていることは本当にこれって生涯学習していける環境があること、その環境が常にあるわけではない中で、どういうふうにしていったら参加できるか。それがさっきのアンケートだと思うのです。ここが多分、生涯学習をどのように、どんな世帯でも、子育てをしていようが、金銭的に困窮していようが、子供が四六時中、２４時間３６５日泣いていようが、学習したいと思う意欲のある人、どうやったらそこを提供できるのかという、そこだと思うのですよね。支援センターでもいろいろとイベントをやっている、

	講座、講習をやっています。託児をつけて。それでも、そこの場所まで行かなきゃいけない。何時何分に荷物を用意して、でも、いきなり授乳になっちゃって行けなくなっちゃうなんていう、当たり前にあるので。でも、子育て世帯だけのことに限ってそれだけあるわけだから、それこそ妊娠中の方から、小さいお子様から高齢の方に至るまでと考えたら、ここって本当にすごく難しい。だからこそ、あのアンケートを生かしてほしいってつくづく思うのですよね。 【委員】私の今の気持ちを考えると、確かに生涯学習って、多岐にわたって行政全般のところまで入り込んでいくような、今、１つ出た交通の問題にしてもそうだし、やっぱりある程度一つ一つターゲットを絞りながら、例えば、交通が障害になって生涯学習に出られないとなったら、じゃ、どうしたらいいかなとか、そういうふうに一つずつ、全部を総花的にやると難しいなという気がちょっとするので、できたらそういうふうにピンポイントに設けながら、こういう場で話ができたら、それはそれでいいのかという気はします。 【委員】まさに私が皆さんに投げかけたのは、こういうことあるよという、気づいてほしいということと、それを思ったことは、多分何個もあるのですよ。その中で、事務局なり町で優先順位をつけて取りかかってほしいというきっかけが欲しかったのでお話ししました。皆さんのお話を聞けて私はうれしいです。 【委員】今、国際交流協会で実施している日本語教室は、今年１５年目ですけれども、赤ちゃんを連れてきても、寒川町のボランティアセンターから託児の方がいらしてくださって、和室で子守している間、お母さんが離れて、日本語の勉強に。例えば、いろんな国、特にアジアの方々が多いのですが、そのお母さんが、１時間半だったら１時間半、子供から離れて学習する時間があるのがうれしい。自分だけがずっと見ているのを託児の方々に見ていただいて、子供と離れて自分がしたいことをしている、この時間がうれしいという、そういうお話も聞いたりしていますので、そういうのは本当に町にご協力いただいて、ずっと続けてきているのですけれども。ですから、そういうご協力もいただいたりして継続をしている、そういう内容もあります。 【会長】複数の委員からお話になったこと、生涯学習って本当に何だろうというところだと思いますけれども、事務局として今何か、お答えできることはありますか。 【事務局】やはり皆様がそれぞれのご活動の中で気づかれた点とか、我々が気づかない部分、見えない部分も含めていろいろお話をいただいたので、大変参考になりました。気づかせていただいた部分も多々ありました。 【委員】今、委員の方に生涯学習とは何かという提案をさせていただいたのは、この委員でなければ調整会議に持っていけないし、町を動かせないのですよ。もう一つあります。町長への手紙。でも、ここで出すべき議題なのです。だから皆さんが、そんなことを考えたけど、そんなことはないよ、それは君だけだろうと言うのであれば、それはそれで終わり。皆さんが本当に生涯学習を真剣に考えるのであれば、これは調整会議なり町長まで上げていただきたいので、皆さんにお話しました。それが私の心積もりです。 【事務局】皆さん、本当に貴重なご意見をありがとうございます。来年度、プランというお話を度々出させていただいているのですが、それをきっかけに、調整会議幹事会という職員間の会議を開いてまいります。そういった部分で、今日いただいたお話、また、当然アンケートも、アンケートを出してもらったからそれで終わりですというお話で私どももやっているわけではございませんので、当然プランにつなげていって、プランをつくるということ自体が、そもそも町民の方々が生涯学習に取り組んでいただけるためにつくるものでありますので、今日いただいたご意見は、今後の会議の中で伝えていきながら進めてまいりたいと思います。今後も忌憚ないご意見をいただければと思います。

	【委員】生涯学習に対しての問題提起、非常に重要なことだと思います。それで私は、生涯学習という印象で、それを寒川町のこういう組織で取り組んでいるということは、多分究極、労働力に対して結びつけているのではないかと思っていたのですが、それだけではないかもしれませんが、もちろん学ぶことによって資格を取ったり、実際自分が産業界に対して貢献していくというところのきっかけになったり、そういうところのブリッジになるということを狙って、こういう活動があるのかなと推測をしてみたのですけど、今、労働人口って本当に足りない状態は日本全体であって、定年後の方たちが、６５歳で元気はつらつ働ける人がたくさんいるわけですよね。その人たちが、働く場を設けて、今だんだん技術も進んで、いろんなものが新しくなって、ＡＩが出てきて、そうすると、リスキリングといって、それをトレーニングしていく。それから、外国人の方に働いていただくという、福祉とか介護系とか、そういうところを援助したりする。それをまず、割と労働に直結したところの橋渡し的なところで学習する。高校が終わったらいい、大学が終わったらいいではなくて、世の中が変わっていく状況、ニーズ、市場の動きに沿って、生涯自分で学ぶということを提供していくことが生涯教育と思っております。これは寒川町だけじゃなく、日本全体の問題だと思うのですけど。そのへんの狙いが明確ではないと、計画もそうだし、いろんなことがぶれるので、もう一回見直していただきたいと思います。もちろん労働だけではなく、いろいろあるかもしれないのですけれども、多分、地方自治体が力を入れてやっていくためには、やはり労働力に直結したブリッジになるというのが非常に重要なところと思うので、そこらへんに結びつけるために、どうドライブしていくかということを考える重要な組織だと思うのですよね。そういうような観点で問題提起していただけると、すごくありがたいと思います。 【会長】そうしたら、今のところは全体的なところで、事務局、何かと大変とは思いますけれども、ぜひ今までの議事の内容を、もっといろんなところに広めていっていただいて、そういった方向に進んでいけるようにしていただけるとありがたいなと思います。あと、事務局から何か。 【事務局】次年度の会議の開催予定等、プランの策定スケジュールについて、説明をさせていただきます。現在の「第２次寒川　学びプラン」は来年度が計画の最終年度に当たるため、「第３次寒川　学びプラン」の策定作業を行います。そのため、通常でしたら会議の開催も夏と３月の２回行っていたのですが、来年度につきましては、７月、１０月、年明けの１月頃を予定しております。また、策定スケジュールにつきましては、夏頃に素案作成を行いまして、庁内の関係課長で構成される生涯学習調整会議幹事会と、こちらの会議で検討を行いまして、１２月から１月にかけまして素案のパブコメを行う予定です。その結果を基に、最終的には令和７年３月に第３次プランを確定させる見込みとなっています。 【会長】では、事務局には今、おっしゃっていただいた流れで今後お願いしたいと思います。それでは、これで本日の日程を終了といたします。ありがとうございました。 ６　閉会 　　芝崎学び育成課長
配付資料	資料１　令和５年度寒川町生涯学習推進会議委員名簿 資料２　寒川町生涯学習推進会議設置要綱 資料３　「第２次寒川　学びプラン」令和４年度事業報告（案） 資料４　「第２次寒川　学びプラン」令和６年度実行計画 参考資料１　生涯学習に関するアンケート調査集計結果

議事録承認委員及び 議事録確定年月日	・村山　智宏　　・齋藤　真理子 （令和６年６月７日確定）